



教育センターだより

高岡市教育センター
令和8年3月6日



子供たちの成長を願って

高岡市中学校長会 会長 杉山 智充

「子供たちはみんな良くなりたと思っています。悪くならうと思っている子供は、一人もいません。」「一人一人の子供には、限りない可能性があります。私たちは指導に全力をかけ、可能性を伸ばすことこそが、教師の使命です。」新規採用で小学校に赴任した時に、指導の先生が私におっしゃいました。

教員人生を振り返り、「使命を果たすことができたか」と考えると自信はありませんが、「ずっと心をもって指導にあたってきた」と言うことはできると思っています。そして、指導の先生の「教師の使命」の考えは、間違いなく普遍のものであると思っています。一方で、子供たちを取り巻く社会情勢は大きく変化し、子供たちに身に付けさせなければならない力、そして教育への社会の要請は刻々と変わり、その時々で教師も新たな考えをもち、新たな指導にあたらなければならないと思います。

先日、天笠茂先生の講演を拝聴しました。

○現行の学習指導要領は、5年がたっているが、趣旨の浸透は「道半ば」である。

○感染症拡大による臨時休業の中、GIGA スクール構想、続いて「令和の日本型教育の構築」を目指し、個別最適な学びと協働的な学びが提言された。各校では、この5年、教育課程の実施がどのような状況であるか振り返る必要がある。

○「主体的・対話的で深い学び」について「何が達成でき、何が道半ばで、何が課題として残されたか」達成できた・できなかったことを明確にして、次の学習指導要領に繋いでいく。

○新しい学習指導要領の内容が、今後1～2年の間に示されることになるだろう。総則のもと、教育課程、次に総合的な学習の時間、道徳、特別活動の全体計画、そして、それらをもとに各教科等の指導計画を見直すこととなる。

文部科学省が振り返りやまとめを行い、次に進むことを各校は受け止め、この先やってくることに目を向けることが大切です。そして、今、直面する課題はもちろん、先述したとおり、「探究活動」「AIの活用」等、新たな課題にも積極的に取り組む必要があります。

こうした状況の中で、教師は次の姿勢で日々の教育活動に臨んでほしいと思います。

○全ての取組は、子供の成長のために行うことであると認識する。

○新たな取組が求められている背景や意義・意味を理解し、新たな教育観と新たな取組への挑戦の意欲をもつ。

○これまでの取組において、教師がもつ知識・スキル・ノウハウを大切にしながら、教師自身が新たな力を身に付けていくよう努力する。

子供たちは、一日一日成長しています。子供たちのやり遂げた時の満足した姿やできた時の笑顔は、本当に美しく、これを見ると元気が出てきます。教員生活を終えようとしている今、子供たちに寄り添い、子供たちと一緒に成長していくことは、とても素敵なことだとしみじみと感じています。今後も子供たちの成長に向けて、子供たちと共に挑戦し続ける教師でいてほしいと心から願っています。

教職員研修紹介 ～高岡市初任者研修会～



◇第1回 5月22日(木) 高岡市役所

教育長講話 「教員としての歩みを始められた皆さんへ」

講師：高岡市教育委員会 教育長 近藤 智久 先生

教員生活をスタートさせた初任者教員に向けて、近藤教育長よりご講話をいただきました。教育長ご自身の豊富なご経験を基に「授業力を磨くこと」「先輩や同僚から学ぶことの大切さ」等、今後の教員生活への貴重なアドバイスに、受講者は熱心に耳を傾けていました。



<感想より>

- ・「知恵は人の頭の中にある」ということを学びました。一人で抱え込まず、同期や学校の先輩方にたくさん相談したいと思います。また、今日は同期と悩みを共有できたりアドバイスをもらえたりしてまた頑張ろうと思うことができました。
- ・どのようにしたら先輩の先生方のような授業ができるのか悩んでいました。この初任者研修で学んだことや先生方からのアドバイスを生かして、一つ一つ取り組んでいきたいと思います。

◇第2回 8月25日(月) 戸出コミュニティセンター

講話等 「よりよい学級・人間関係をつくるために」
～新採のあなたが、“今”できること～

講師：高岡市教育委員会 参与 鳥内 禎久 先生

アドバイザー：高岡市教科指導員



よりよい学級づくりのために、「子供たち一人ひとりを大切にする」、「達成感を味わえる授業づくり」等、多岐にわたってご講話いただき、受講者からは、今後の取組に生かしていきたいとの感想が多く寄せられました。また、グループごとに1学期の振り返りや2学期に期待することや不安なこと等話し合い、教科指導員からアドバイスをいただきました。

<感想より>

- ・一人一人の個性や思いを尊重することで、子供たちが安心して学べる場をつくることが重要であると学びました。
- ・メンターの先輩を見付けることが自分の成長につながることを教わりました。自分の周りにはいろいろなところにヒントが転がっており、それに気付いて取り入れられるようにしていきたいです。

◇第3回 11月27日(木) 戸出コミュニティセンター

講話等 「子供とともに、保護者とともに」

講師：高岡市立木津小学校 校長 池田 宗介 先生

池田校長先生がご経験された様々な事例を交え、生徒や保護者と信頼関係を築くポイントについてご講話いただきました。受講者からの質問にも具体的に答えていただき、生徒指導に不安な思いのある初任者への力強いエールとなりました。



<感想より>

- ・日々の学校生活を充実させ、子供が安心して過ごせる環境をつくることが、結果として保護者の信頼獲得につながると実感しました。
- ・子供の小さな変化に気付き、困りごとに早期に寄り添う姿勢の重要性を学びました。今後の実践に生かし、子供と保護者の双方に寄り添える教師を目指したいと思います。

教師としての喜びや誇りを感じ、仲間と悩みを分かち合うことができるよう、初任者研修会を実施しました。「初任者同士のつながりができ、互いの悩みを共有できた」「授業づくりから生徒指導、保護者対応まで幅広いテーマについて学ぶことができた」という感想が寄せられました。今後も、受講者が教育活動への意欲を高められる研修を行いたいと思います。



◇ ICT活用推進委員会の取組より◇

昨年度と同様、「高岡市小中学校情報活用能力の系統表」活用チームと「NHK for School」活用チームに分かれて活動しました。系統表チームは、今年度、学習専用端末が、MicrosoftOS から GoogleOS に変更されたため、Chromebook で活用できるよう改訂しています。NHKチームは、NHK for School のサイトにある動画や資料を活用した指導例について研究しました。授業の中で、すぐに活用できるよう事例を増やしています。

研究の成果は、次年度1学期の学校DX研修会等で周知し、各校で活用できるようにする予定です。

【情報活用能力の系統表】

高岡市学習専用端末活用系統表		高岡市ICT活用推進委員会
操作スキル	端末活用例	授業での活用例
電源 再起動/シャットダウン パスワード	電源 再起動/シャットダウン パスワード	2年生 算数、図形 3年生 算数、図形、図形 4年生 算数、図形、図形、図形
低学年 授業 写真撮影 保存/共有 写真共有 電子黒板 電子黒板	① クラスルームの作り方 ② クラスノートブックにアカウントを登録 ③ クラスノートブックでページを閲覧	
中学年 授業 写真撮影 保存/共有 写真共有 電子黒板 電子黒板	④ スライドで授業資料を共有 ⑤ クラスノートブックで授業資料を共有	5年生 算数 6年生 算数 7年生 算数、図形、図形、図形、図形
高学年 授業 写真撮影 保存/共有 写真共有 電子黒板 電子黒板	⑥ クラスルームで授業資料を共有 ⑦ クラスノートブックで授業資料を共有	8年生 算数 9年生 算数、図形、図形、図形、図形
中学生 授業 写真撮影 保存/共有 写真共有 電子黒板 電子黒板	⑧ クラスノートブックで授業資料を共有 ⑨ クラスノートブックで授業資料を共有	10年生 算数、図形、図形、図形、図形 11年生 算数、図形、図形、図形、図形

【クラスルームの作り方】

※クリックすると、操作法が開きます。



【NHK for School の活用】

チームで、同じ時期にはかった記録を比較してみま



右図はPDF教科書の一部。

PDF教科書に、「NHK for School」の番組につながる緑色の「NHKマーク」がついており、クリックするとすぐに番組を見ることができます。

◇ 全国学力・学習状況調査分析委員会の取組より◇

今年度の全国学力・学習状況調査の結果を分析し、目指すべき子供の姿や資質・能力について考え、9月の「高岡市立学校学習指導改善研修会」にて、その分析結果を報告しました。学力調査の報告では、本市の児童生徒の課題を踏まえ、演習等を交えながら学力向上に向けた今後の授業改善について報告しました。

また、学習状況調査の報告では、全国や県との比較、教員と児童生徒の回答の比較から「子供が自己調整しながら学びを進めるための手立て」「個別最適な学びに向けたICTの効果的な活用」についてお伝えしました。

小・中学校の教員が、双方の分析結果を知ることで、9年間を見通した小中一貫教育の視点で、今後の授業改善に生かしてほしいと思います。



☆高岡市適応指導教室(きらら子教室)より

心の居場所づくり

高岡市適応指導教室では、子供たちの心の居場所づくりに努めるとともに、主体性や社会性を育むために、様々な活動に取り組んでいます。今年度の児童生徒の学びの様子と新たな取組を紹介します。



◇ 体験を通しての学び ～知的な好奇心を高め、学びを広げる～

通級生が、体験を通して抱いた気付きや素朴な疑問(知的な好奇心)を大切に学習支援を行っています。例えば、生活科に関連した取組として、①ダンゴムシを園庭で捕まえる。→②透明なフードパックに枯れ葉や野菜を入れて住みかを作る。→③お菓子の箱の中に迷路を作ってその動きを観察する。といったように、実際に子供が生き物に触れたり、観察したりして抱いた疑問を基に、解決に向けた支援をすることで、知的な好奇心がどんどん高まりました。子供自身が学びを広げていく主体的な活動となりました。



◇ 学習専用端末の活用 ～子供たちの学びや関わりを深める～

適応指導教室では、自分のペースで学ぶことを大切にしています。通級生の中には、学習専用端末を活用して、お絵かきソフトを使って自由に絵を描いたり、NHK for school で興味をもったテーマを調べたりする児童もいます。中学生は各教科の学習で分からない内容等を学習専用端末で調べるなど、学習を補助するツールとして活用しています。また、中学生が小学生に学習専用端末の使い方やタイピングの仕方を教えるなど、通級生同士が関わるきっかけとしても大いに役立っています。



◇ アウトリーチ活動 ～学校との連携から～

小学校の不登校児童が増加傾向にあることを踏まえ、小学校を中心に教育相談員が学校に出向き、各校の不登校児童の現状について情報交換をしました。これまでも、通級生や保護者の不安を軽減できるよう学校と保護者とのパイプ役として情報収集や情報共有に努めてきましたが、学校を訪問し、管理職等と面談したことで、各校における不登校の課題や要望を把握することができました。また、適応指導教室への理解(一人一人の実態に応じて柔軟に利用できることなど)にもつながったようです。

高岡市適応指導教室(きらら子教室)では、悩みを抱える児童生徒や保護者との相談活動、不登校児童生徒への支援等を行っています。対象児童生徒についての相談は随時受け付けております。(TEL 20-1656)

教育相談の状況 (R7.1月～12月)

少年育成センター(守護町)で行っている「少年なんでも相談」では、医療専門相談員と相談員が、青少年や保護者、教員等の相談に、電話や面談で応じています。令和7年1月～12月までの相談件数は、656件でした。困っている保護者の方がいらっしゃいましたら、先生方からもご紹介ください。保護者からの希望があれば、面談の予約(9:00～16:00)をいたします。

困ったことがあったら、気軽に「少年なんでも相談」TEL.(20-1653)に電話してください。



高岡市教育総合支援センター 令和8年4月OPEN!



高岡市教育センターは支援機能を拡充し、高岡市教育総合支援センターとして、旧平米小学校に開設します。なお、少年育成センターも同センター内に移転します。高岡市教育総合支援センターの案内リーフレットを、現ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。



高岡市教育センター

〒933-8601 高岡市広小路7番50号
(学校教育課内)

TEL 20-1204

FAX 20-1667

ホームページ

